

命を守る行動 宿泊で学ぶ

消火活動

避難所生活の体験に救急法の講習、震災講話などを盛り込んだ一泊二日の防災訓練が十、十一の両日、浜松市西区の雄踏中学校で行われた。宿泊を伴う訓練は初めてで、一年生百四十五人が避難時の注意点や課題を認識するとともに、命を守る意味を考えた。

(小林颯平)

初日は午後各教室に各自の寝床を準備。一人が寝られるスペースに段ボールを敷き詰め、その上に持参した寝袋や毛布を敷いた。生徒は段ボールで高さ三十センチほどのパターションを作成。プライバシー保護や新型コロナウイルス感染症の拡大防止にも留意した。

夕方からは地域住民も加わり、炊き出しに挑戦。ガス会社「エネジン」（同市中区）から災害時に使える小型ガスボンベの提供を受け、大型の鍋で約百六十人分のカレーを作った。

自動体外式除細動器（AED）の使い方や応急処置法も学び、夜には東日本大震災の被災地に派遣された市職員の体験談に耳を傾けた。二日目

雄踏中1年生145人 学校で



段ボールで寝床の仕切りを作る生徒たち＝浜松市西区の雄踏中で

時の消火活動にも理解を深めた。

訓練は市教委の「夢育やらまいか事業」の一環。坂田仁志さん（三）は「災害時は特にみんなが協力して生活することが大切だと思った。災害が起きたときはこの体験を生かしたい」と話した。

避難所体験

救命講習

炊き出し